

令和6年度 学校教育計画 最終評価

教育理念	－ 真理の探究 － 自他の敬愛 － 責任の完遂		
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。		
中期目標	(1) ライフプランを考え、進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	総合評価	・新学習指導要領にそった多面的な学習評価を実践し生徒にフィードバックすることができた。ICTを活用した実践的な学習活動や生徒主体の探究的な活動を地域と連携して活発に実施することができ、生徒の思考力や表現力の涵養につなげられた。 ・桔梗祭、PTA総会や講演会、体験入学をはじめ、活気ある数々の教育活動を実践する環境を整えることができた。また、その様子を＃ShigakuやSNSで伝え、中学校や地域に情報を発信することで、開かれた学校づくりに向けた取り組みを積極的に行うことができた。県外の方などにも、実際の教育現場を見ていただくことができた。 ・生徒に寄り添う生徒支援を継続するとともに、一人一人の生徒にとって学校がいじめのない安心で安全な場所であり続けるために、細やかな対応と外部機関との連携をさらに強めていきたい。
今年度の重点目標	① キャリア教育に基づく適切な科目選択をとおして、生徒の進路実現を支援する ② ICTの活用による知識の定着と、思考力や応用力の涵養、実践的探究的な活動を充実させる ③ シオジリ・地元企業・保護者との連携、体験入学や公開授業などを通じ、中学とより緊密に交流する開かれた学校づくり ④ 学校の教育活動の活性化と安心安全な環境を確保する ⑤ 統合新校の学びのイメージについて、地域・生徒・保護者の要望を受けとめるとともに校内議論を深める		

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 志学生が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③	ア 月暦・日課等の作成と周知徹底、状況に応じた日程変更と連絡の徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 各種研修の推進、サポート	A	・新しい学習評価により、生徒の意欲や関心が明示され、それを基にフィードバックし授業に活かすことができた。	・急に日程を変更するケースがあった。基本的には年歴に沿い、早目に学習活動を計画し、周知徹底してゆく。
	2 教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。	②③	エ 公開授業および体験授業の充実を図り、在校生と触れる機会の提供 オ 中学生向けの出前授業・進路講話の地域を拡大実施し本校に対する関心を高める。 カ 中学校訪問等を通じた、本校の特色や入学者選抜の中学校や中学生への周知	A	・県外からの問合せや公開授業員以外でも柔軟に対応し、見学していただくことができた。体験入学では一人一人の要望に合った授業を体験していただくことができた。	・公開授業・体験授業の申し込み方法を効率的なものに改善してゆく必要がある。 ・例年になく猛暑の中で体験入学の開催であった。暑さを考慮した方法を模索する必要がある。
	3 PTA活動、地域と連携した諸活動を通じ、学校・家庭・地域社会を繋ぎ、生徒が安心して活動し、豊かな経験を積める環境を整える。		キ 学校・学年・学級のPTA活動を通じて、学校と家庭における教育の情報を共有し豊かな学びの機会の充実 ク PTA会報などの内容と広報の充実拡大	A	・高校再編に関係する講演も大勢の保護者の方や職員に聞いて頂くことができ、その後の総会もスムーズに運んだ。	・より多くの方の出席を実現するための方策を更に考える必要がある。
	4 いじめや体罰のない生徒一人一人が安心して取り組める活気のある教育の環境を整える。	④	ケ 生徒を取り巻く様々な状況の変化に臨機応変に対応できる態勢をと コ Webサイト・Instagramなどによる教育活動の情報発信	A	・高山・新潟へのPTA研修旅行も天候にも恵まれ大好評であった。 ・安全で活気のある教育環境を整え、生徒が生き生きと活動することができた。	・Webサイトで教育活動を発信していることの宣伝と回数を増やす。
	5 新校のイメージに対して議論する場を生徒や教師間でもうける。	⑤	サ 生徒会と協力し、生徒に新校のイメージを考えてもらう機会や職員研修の場をもうける。	A	・職員研修会、生徒の懇話会の意見発表など新校を考える機会を多く持つことができた。	・より多くの教員・生徒に意見を出していただく場を設け、新し情報を共有する。
進路指導	1 各部署とのつながりを意識し、体系的・組織的に進路指導を行う体制を整えるとともに、職員間での情報共有を図る。	①②	ア 生徒の進路に対する意識の向上と、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを研究、実践する。 イ 新教育課程に対応できるよう引き続き共通テストの情報を収集し、職員間での共有化を図る。 ウ スタディーサポートや模擬試験など学びの基礎診断ツールの効果的な活用を研究、実践する。	A	・「総合的な探究の時間」を活用し、外部講師を招いて進路ガイダンス・マナー講座などを開催した。 ・11月に職員を対象に進路情報報告会を開催した。 ・推薦会議は3学年のみならず、全職員のオープン参加とした。 ・教科ごと放課後補習・土曜講座を開校しているが、参加者は多くない。 ・夏休みの就業体験を前に、2年生就職希望者は3年生とともに6月の企業見学会にも参加したが、その反動か、1月の企業見学会への参加者は少なかった。	・次年度から「総合学力テスト」を「進路マップ実力診断テスト」に変更する。提供されているツールやコンテンツを積極的に利用し、事前事後指導に役立てたい。 ・アプリケーションソフトのスケジュール機能を利用し、進路指導部が得た外部情報を全職員が共有できるよう環境を整えた。 ・推薦会議は3学年のみならず、全職員に対しオープンとした。 ・学校推薦に関する内規を見直し、「進路の手引き」の作成に着手する。
	2 自らの目標と進路の実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る。様々な検定試験の受検を奨励する。	①②	エ 桔梗塾などの補習授業や勉強クラブ、各種検定に意欲的に取り組むよう促す。 オ 進路ガイダンス、進路相談会、オープンキャンパス、企業見学会への積極的参加を促す。 カ 「進路通信」「志学の時間」を通して、進路に関する情報を提供するとともに進路意識の啓発に努める。 キ 一人一人の生徒の状況に応じた進路が実現できるよう支援する。	A		

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③貴重品の管理, 携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止	②③④	ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声がけを大事にする。 イ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 ウ 交通安全指導を折に触れて行い、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	B	・生徒動向を職員間で共有し、生徒指導や生徒支援に努めることができた。 ・校内巡視を実施したが、夏休み前に盗難が連続して発生した。警察の調査も入りそれ以降は発生していないが、今後も巡視等の対策を続けていきたい。	・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒指導・生徒支援に努める。 ・校内巡視を引き続き実施し、盗難や授業の中抜け等を未然に防ぐ。 ・ヘルメットの着用を推奨する。 また、条例に準じて自転車の保険加入を徹底する。
	2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える	③④	エ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 オ HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	A	・ハイパーQUに加えアセスを実施し、いじめの防止に努めた。 ・専門機関とも連携し対応することができた。	・定期的な面談に加え、ハイパーQ U、アンケート、アセス等を活用し、いじめ防止に取り組む。 ・LHRを活用し、いじめ防止の取り組みを行う。 ・支援の必要な生徒には、相談室を窓口にも各部署・専門機関と連携をとり対応する。
キャリア教育推進	1 総合学科の特徴を活かして社会の変化に対応したキャリア教育を行う。	①②③④	ア 生徒が科目選択などを通じて自己の価値観や可能性を広げられる機会とし、新教育課程に則したシステムや指導方法、ICT活用などを見直し、実践することができたか。 イ 社会及び価値観の変化を踏まえながら生徒自身が自分の将来や社会との関わり、貢献について考えることができたか。	B	・科目選択スケジュール、講座人数の偏りなどの諸課題は多い。 ・「私の科目選択提案書」(1年)など自分の将来を探究的に考え、発信する取り組みができた。	・科目選択に向け学習計画を全体的に早め、生徒との相談、職員の相談体制など、余裕を持たせる。そのために、進路指導部とも計画のすり合わせをより緊密にしていく。「私の科目選択提案書」をベースに各学年の学習計画を精査する。
	2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」を計画・実行する。	①②③	ウ 探究的な学びを通して自己や他者への理解を深めるとともに、自ら課題を解決しようとする姿勢を養うことができたか。 エ 各学年の学習計画および「志学の時間」や「ポートフォリオ」の作成、振り返りを通じて探究的に学びを深めたり、社会で生きていくためのキャリア観を養うことができたか。	B	・各学年で実施している学びの内容はより改善していく余地が大いにある。 ・ポートフォリオについて、自己の学びを振り返る習慣は定着しているが、それをまとめ、キャリア観を養うことにはつながっていない。	・1「総合学科の特色」と合わせ、総合学科塩尻志学館高校としての「こだわり」になる部分を整理し、全職員の共通認識を強めたい。進路指導部と「手引き」のような「基準」「原則」を整理し、全職員が指導しやすい体制を作る。
	3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力を高める。	①②③④	オ「シオジリ学」を3年間継続的に学習できるプログラムとし、地域資源を積極的に活用し、探究的な学習を実践できたか。 カ 生徒の活動や学習の成果を広く発信することができたか。	A	・シオジリ学は5年目を迎え地域貢献・地域振興の内容になり地域の反応も概ね良い。「探究的な学び」として時間が十分にとれない問題意識がある。	・2年次、3年次へとつながる「探究的な学び」の基礎として学習内容(実践、発表など)をより発展、継続性を持たせる必要がある。各系列、教科の特色と生徒の興味、進路希望がつながるサポーターシステムを検討する。
生徒会	1 生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。	①②④	ア 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。	A	・生徒会の活動(文化祭、クラスマッチ等)を通して、委員会、部活動など生徒相互のコミュニケーションを深めることができた。 また、各種会議や校外ボランティア活動への参加から地域連携の必要性を強く感じることで、生徒会活動が充実したものとなった。	・生徒会活動は「生徒が成長する良い機会」ととらえ、生徒と職員が連帯感を持って前向きに活動できるように支援する。特に「ホウレンソウ(報告・連絡・相談)」を今後も大切にし、生徒だけで物事を進めていくことのないようにしていきたい。
	2 生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。	①②④	ウ 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。	A	・生徒会行事の企画立案や運営を通じて、全員で協力し活動することの重要性が理解できた。伝統を重んじながら、自分たちのカラーを大切にして、全校で行う行事を開催することができた。特に都市大塩尻と共催した天弓祭の今後について深く考えることができた。	・生徒会の各行事、活動に見通しを持たせ、早い段階から企画立案や運営を促す。その際は、意見交換に重点を置き共通理解をのものと、より良い生徒会活動ができるよう、生徒の自主性を大切にした支援をしていく。「前年度踏襲からの脱却」を目指したい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
ICT図書視聴覚	1 ICTを活用して学校教育の充実を進める。	②	ア ICTを効果的に使い、生徒の主体的・協働的な学びを促す。 イ 探究活動等におけるICTを活用した指導を推進する。 ウ ロイロノートやGoogle Classroomの多岐にわたる活用を進める。	A	・今年度は全学年iPadで統一ができ、授業だけでなく行事等でもロイロノートを活用できた。 ・より効果的な活用のために、機材を充実させる必要がある。	・Apple、Google、Microsoft各社が提供するサービスやソフトの違いによって生じた不具合や、機械のトラブルに対応できるように、職員間での情報共有を密に行っていきたい。 ・職員がこれまで以上にICTを活用できるよう研修会などの実施も検討していく。
	2 ICT環境を整えて校務における活用を促進する。	②③	エ 学校ウェブサイトやSNSを通して学校の情報を発信する。 オ 統合型校務支援システムを活用して業務の効率化を図る。	A	・日々の活動を校内外の方へ向け、広く発信できた。 ・職員が管理しているSNSが複数あり、情報が分散していることが課題と考える。	・職員の管理するSNSの一元化を目指すしたい。
	3 図書館運営の充実を図る。	①②	カ 図書館利用の活性化を図る。 キ 生徒の読書活動の向上を図る。 ク 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 ケ 生徒の探究活動に沿った蔵書の拡充を図る。	A	・生徒と職員の購入リクエスト、及び総研テーマ関連に対応し蔵書が一層充実した。委員会企画の読書旬間、カードゲーム会、ビブリオバトル等のイベントは、Classroom連絡を密に行い参加者も多く活性化した。	・引き続き探究的な学びを深める支援をし、図書館の機能が果たせるよう努力したい。他館との連携も継続し、図書館の多面性を深め拡げたい。図書委員会を中心として利用の活性化を図り、全校生徒への読書の関心を高めたい。
	4 視聴覚教育の充実を図る。	②④	コ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。 サ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 シ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。	A	・芸術鑑賞を事故なく円滑な運営をすることができ、生徒が観劇を通じ、自らの考え方や生き方を見つめ直すことができた。	・観劇の内容に一部センシティブな内容が含まれていた。多くの生徒にとって支障はなかったが、一部、気になる生徒の感想もあった。事前学習を充実させ、少しでもハードルが下がる工夫をした。
	1 校舎内外の清掃の徹底と感染症予防対策の継続。草花などの装飾による美化活動	④	ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 イ 清掃および感染予防対策の継続 ウ 各人が自ら判断して感染症予防対策に取り組める教育環境の充実	A	・ゴミステーション当番、モップ交換、ワックスがけ、感染症予防等、生徒会委員会と協力しよくできた。 ・花壇を作りも充実させた。	・日常的な校舎の清掃の徹底とごみ分別・削減に、各委員が更にクラスへ伝達し取り組みたい。
保健厚生	2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	④	エ 保健委員会と職員の協力体制を強化する。 オ 外部講師の精選と教育方法の研究をする。	A	・ともに職員の協力があり、予定通り実施できた。がん教育講演会も新規実施した。	・来年度も計画通り実施したい。
	3 職員厚生の充実	②④	カ ストレスの軽減とリフレッシュ行事の実施	A	・ポッチャ職員研修は好評だった。時節の親睦会の参加人数も増え良かった。	・来年度も親睦とリフレッシュを兼ねた職員研修を実施したい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
1 学 年	1 基本的生活習慣の確立	①③④	ア 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。 イ 家庭との連絡が密にとれたか。	A	・概ね落ち着いて学習に取り組む、生活も送れている。しかし、今後が心配な生徒も見られる。	・保護者との連絡を密にし、職員間でも常に情報共有を行い、指導していきたい。
	2 学習習慣の確立	①②③	ウ 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	・働きかけにより、前向きに学習に取り組んでいる生徒が多いが、これからの生徒もいる。	・今後の進路や科目選択を見据え、進路実現に向けて学習意欲を高めるよう指導していきたい。
	3 相互理解を深める	②③④	オ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	A	・HR活動や、シオジリ学でのグループ活動を通して相互理解を深め意志疎通をはかった。	・来年度も色々な学校での行事、活動を通して生徒が活躍できる場を増やしていきたい。
2 学 年	1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える	①②③④	ア 学年全体、進路希望別、それぞれの集団での学習活動ができたか。 イ 進路指導部とキャリア推進部の連携によるCPの充実が図れたか。 ウ 個別に学力・生活状況に応じた相談・助言ができたか。	A	・進路希望別に集団を作り、進路指導部とキャリア推進部とが連携して学習活動ができた。 ・希望者模試(進学、看護医療)を実施した。	・生徒の進路希望を把握し、やる気を出せるように学習指導を行う。希望者模試の申し込み手続きについては、進路指導部でも検討し進める
	2 研修旅行の充実	②③④	エ 平和学習の充実が図れたか。 オ 訪問する各地の地理・歴史・文化について理解を深められたか。 カ 互いに協力し自らの責任を果たし、有意義な研修旅行になるように指導できたか。	A	・係が中心となり、文化祭の展示を実施、事前学習で訪問する各地の地理・歴史・文化について学習した。平和学習も現地で更に深く学ぶことができた。 ・係の仕事や、班の役割を互いに協力して行った。	・文化祭の展示は、クラスごとではなく、見学箇所でのグループ割にしたが、準備期間が足りないようであった。
	3 相互理解を深める	③④	キ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。 ク 家庭との連絡が密に取れたか。	A	・文化祭の活動等で、クラスの隔たりがなく、多くの生徒同士でかかわることができ、有意義であった。 ・生徒の相談にのったり、家庭との連絡は密にとることができた。	・生徒支援、スクールカウンセリングや保健室、学年などとさらに連携して対処していきたい。
3 学 年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③	ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図れたか。 イ 個性や適性などに応じた進路指導をできたか。 ウ 多様な入試制度に対応し、受験準備など計画的に活動できるように支援できたか。	A	・キャリアデザインやホームルームを通して、自らの進路を主体的に考え実現に向け必要な力をつけることができた。また、全職員で一人一人の進路実現を応援することができた。	・3年になってから進路変更を繰り返す生徒が数名いたので、進路研究をしっかりとやること、変更について本人や家庭とよく話し合うことが重要。 ・進路決定後も周りへの配慮ができる姿勢を大切できるよう指導していきたい。
	2 コミュニケーション能力の向上	③④	エ 互いに尊重しあえる関係が築けるようにアドバイスできたか。 オ 家庭との連絡を密にとれたか。 カ 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成できたか。	A	・授業、生徒会活動などを通して、互いに尊重し合える関係やコミュニケーション能力を育成できた。また、家庭との連絡を密にとることができた。	・さらに、円滑なコミュニケーションを図る能力を身に着けるために、様々な場面を設定していきたい。
	3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	キ 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援できたか。 ク 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせることができたか。	A	・各場面で中心的な役割を担い、充実した学校生活を送ることができた。	・不安定な生徒について、保護者との連絡と教員間の情報共有を密にして、指導していきたい。